

注 意 報

農技セ第5061号
令和3年10月29日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和3年度農作物病害虫発生予察情報について

令和3年度農作物病害虫発生予察注意報第4号を発売したので送付します。

令和3年度病害虫発生予察注意報第4号

令和3年10月29日
徳 島 県

トマト、ミニトマトについて、10月6半旬の巡回調査の結果、コナジラミ類の発生が過去10年間で最も高くなっていることから、注意報を発令します。

栽培現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：トマト、ミニトマト

病害虫名：コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

1. 発生地域 県北部地域
2. 発生時期 10月下旬～
3. 発生程度 多(前年より多く、平年より多い)

4. 注意報発令の根拠

10月26日、27日に行った巡回調査の結果、発生圃場率が100%、寄生葉率が19.9%と、平年(66.3%、4.2%)に比べて高く、いずれも過去10年と比較して最も高かった(表1)。

表1 トマト・ミニトマトにおけるコナジラミ類発生圃場率、寄生葉率の過去10年間の推移 (調査地:阿波市8カ所)

調査年度	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	平年
発生圃場率(%)	100	50.0	87.5	90.0	60.0	50.0	55.6	55.6	88.9	50.0	75.0	66.3
寄生葉率(%)	19.9	2.3	7.3	7.8	6.8	4.4	0.9	1.3	3.9	1.5	6.0	4.2

5. 防除法等

- (1) 施設内への侵入を防ぐため、開口部は防虫ネット等(目合い0.4mm以下)で覆い、外部からの侵入を防止する。
- (2) 高密度になると防除が困難となるため、発生初期から防除を行う。
- (3) 花粉交配用昆虫等の有用生物を利用している場合は、影響日数に注意して農薬を使用する。
- (4) タバココナジラミは黄化葉巻病の原因であるウイルス(TYLCV)や黄化病の原因であるウイルス(ToCV)を媒介する。ウイルス病発病株は見つけ次第抜き取り、ハウス外に持ち出し適切に処分する。
- (5) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 トマト、ミニトマトのコナジラミ類に使用できる主な薬剤（令和3年10月25日現在）

農薬の名称	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤使用回数	IRACコード
アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内 但し、ミニトマトは2回以内	4A
アルバリン顆粒水溶剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
スタークル顆粒水溶剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
ベストガード水溶剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
トランスフォームフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	4C
アニキ乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	6
コロマイト乳剤	1500倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
コルト顆粒水和剤	4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	9B
チェス顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
クリアザールフロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	23
ウララDF	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	29
ファインセーブフロアブル*	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	34
	ミニトマトは1000倍				
ボタニガードES	500～2000倍	発生初期	散布	-	天敵製剤
ボタニガード水和剤	10g/10a/日	発生前～発生初期	タ'外内投入	-	
ゴッツA	500～1000倍	発生初期	散布	-	

* タバココナジラミに適用。

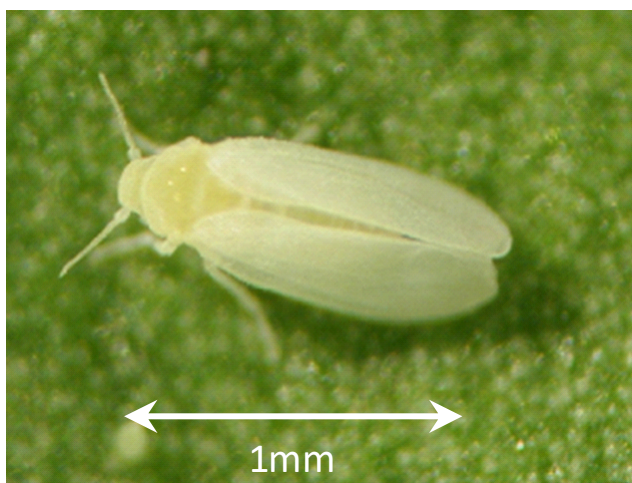


図1 タバココナジラミ成虫



図2 タバココナジラミ幼虫